

■発行：一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: <http://www.kumamoto-if.or.jp/>



KUMAMOTO
INTERNATIONAL
FOUNDATION

熊本市外国人総合相談プラザ開設から1年

2019年9月1日熊本市外国人総合相談プラザ（以下、「プラザ」という）が熊本市国際交流会館2階に開設されました。プラザには、開設以来日本語・英語対応のコーディネーターが常駐し、中国語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語等多言語相談員のほか、三者通話やテレビ会議を活用し18言語での対応を行っています。相談内容も在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・教育等の生活全般にわたり相談を受け付けています。本稿では、開設から1年を数字で振り返ってみたいと思います。（統計データは2019年9月～2020年8月の統計）



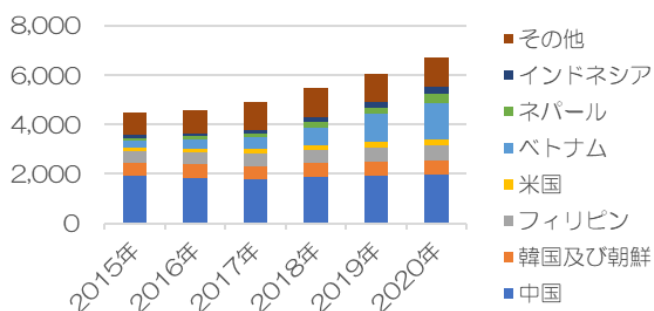
熊本市の外国人住民の状況

2016年の熊本地震以降、外国人数は急激に増加しています。2016年は4,589人でしたが、毎年、約300人（2017年）、約550人（2018年、2019年）と増え続け、2020年には6,693人となりました。（熊本市HPより）

国籍別では、中国、韓国及び朝鮮、フィリピンの順

に多かったのですが、2018年よりベトナムが中国に次いで2番目に多い国籍となり、次いでフィリピン。その他ネパール、インドネシアも増加傾向にあります。ベトナム、フィリピン、インドネシアは主に技能実習生の増加、ネパールは日本語学校への留学生が増えています。今後も農業や製造業等人手不足解消のため実習生等の増加が続くとみられ、更に外国人数は増えていくものと思います。

熊本市外国人住民数の推移



外国人総合相談プラザの状況

開設以来、相談は毎月150件前後で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）の影響で3月、4月から対面相談が減少しています。今年度に入ってから相談内容はコロナの症状に関するものが半数以上を占めています。5月になると特別定額給付金に関する相談が増え、7月に入ると生活苦による財政支援やPCR検査に関する相談など、そして8月以降は就労に関する相談が増えています。

《特集》熊本市外国人総合相談プラザ開設から1年

..... P1～2

事業紹介 ～人づくり推進事業～

..... P3

新型コロナウイルス禍での世界の生活

目次

Contents

ちょっといわせてはいよ！《インターン活動》

..... P6

世界を知る～It know the world～

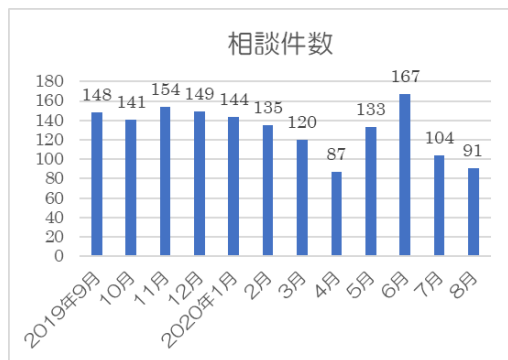
青年海外協力隊OG 濱田 真梨子さん

ちょっと日本語/新ホームページ紹介/

令和2年度賛助会員

..... P8

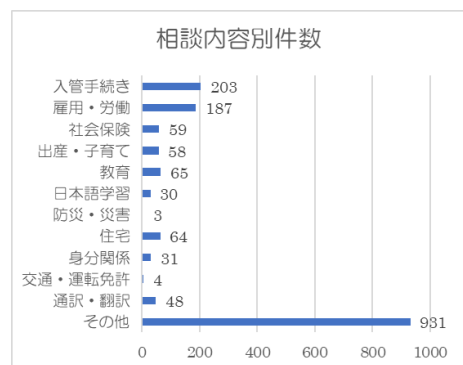
熊本市外国人総合相談プラザ開設から1年



特に特別定額給付金に関する相談は、全体で150件を超え、「給付対象者なのか」、「日本に戻れない状況でどのように申請すればよいのか」という海外からの相談や「申請書の書き方がわからない」など様々な相談が寄せられました。

コロナ禍で、「出国できない、在留資格の変更により滞在は可能、でも生活はできない…どうしたら…」と途方に暮れる外国人からの相談があり、入管手続き、雇用・労働、居住、通訳など各専門相談員と連携し問題解決にあたってきました。

相談内容別件数（下記グラフ）で、その他の件数にコロナ関係の相談が含まれ圧倒的に多かったということもありますが、行政の各種申請書の記入支援、行政サービスの説明等々、個人的な人探し、生活ルール（ゴミ出し、ご近所付き合い）などが本来の相談に付随して多くありました。コロナの影響で3月までは来館による相談が564件ありましたが、4月以降は120件と減り、電話・メール相談が



360件から414件に増えています。相談言語は日本語での相談が5割、次いで約3割が英語となっています。



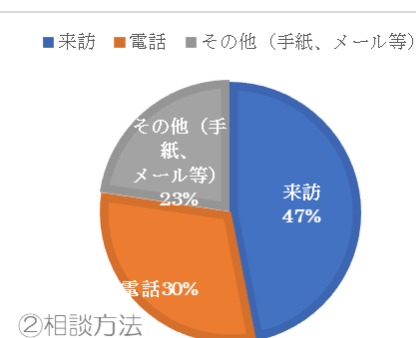
考察

この1年、様々な相談業務に関わる中で大きく分けて3つの課題がみえてきました。その3つとは①言語の問題、②文化の相違の問題、③先入観の問題です。

①言語の問題に関して、外国人住民の日本語能力が不十分なため、政手続きや運転免許等資格の取得が困難となった事例や豊富な教育歴を持ちながら日本語コミュニケーション能力不足によって見合った仕事に就職できない事例がありました。また、新型コロナウイルスや特別定額給付金などの情報入手に関して、日本人住民とのタイムラグがあることも相談業務の中で見えてきました。やはり、外国人住民の基礎的な日本語能力の向上が不可

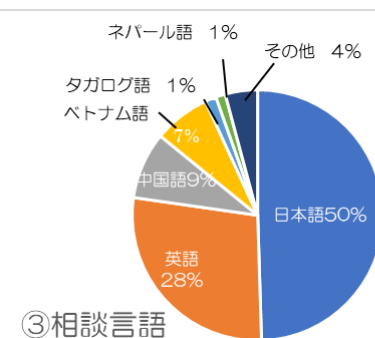
欠だと痛感しています。更なる日本語教育支援は喫緊の課題だと思います。

②文化の相違の問題に関して、母国との交通ルールや教育システムの違い、ごみの分別の仕方の違いなどから、日本人住民が当たり前に生活をしている社会のルールで、様々なトラブルが生じるケースを取り扱うこともありました。また、行政サービスと文化の違いという課題も見えてきました。来熊し様々な行政手続きをする際に、日本語が難しいだけではなく、説明を受けても母国の行政サービスの中に入らない概念であるため理解が困難に



なるケースもあり、言葉の問題に加え、行政書類作成の中にも相互の文化理解の重要性を痛感しました。③外国人に対する先入観によって起こるトラブルが多

くありました。例えば、借主が外国人という理由でマンションや家の賃貸契約を断られる、あるいは、洗られるという相談、また、外国人労働者に対する偏見や差別に関する相談も受けました。外国人住民への先入観がこれらのトラブルの原因の1つだと考えられます。相手の生活バックグラウンドや文化・宗教などに少しでも理解を深め、相手を同じ住民として感じることが出来れば、そうしたトラブルを防ぐことは可能になるのでは



ないかと思います。1年間のコーディネーター業務を通じて、多文化共生社会構築の第一歩は、外国人住民の生活基盤の確立であることを痛感しました。彼らが地域の生活ルールに適應できるように、プラザではゴミ出し、自治会などの地域活動、防災、医療、保育・教育など様々なテーマに関する「生活ガイダンス」を実施しています。新型コロナウイルスの影響で対面でのガイダンス実施は困難であるため、動画などを使った生活ガイダンスを実施します。また、外国人住民コミュニティと日本人コミュニティとのネットワーク作りに向けてプラザが出来ることを具体化し、互いに顔の見える関係性を通じて、多様性に富んだ住みやすい熊本市になればと思っています。

事業紹介 ～人づくり推進事業～

熊本市国際交流振興事業団では、国際化に対応した人づくり事業として、高校生を対象にした「国際ボランティアワークキャンプ」、大学生を対象にした「グローバルワークキャンプ」を夏休みの時期に開催してきました。

しかし、今回の新型コロナウイルスの影響で、いずれも夏の時期の開催を中止し、高校生は12月に宿泊を伴わない2日間でのプログラムで、大学生は11月から毎月ワークショップを開催することとしました。

それぞれのプログラムの内容については下記の通りです。

詳しくはHP (<http://www.kumamoto-if.or.jp>)をご覧ください。

「第15回 国際ボランティアワークキャンプ」

期 日：2020年12月19日（土）、20日（日）

会 場：熊本城ホール シビックホール（12月19日）

熊本市民会館シアーズホーム夢ホール 大会議室（12月20日）

参加費：1,000円（2日分・昼食代含む）

対 象：高校生 75名 10月19日～11月18日の間に申込書にて

（詳しくはHPにて）



プログラム：19日 開会式、基調講演、全体交流会、未来職道（いろいろな活動家の話が聞けます。）

20日 分科会活動、全体報告会、閉会式

「グローバルワークショップ」

期 間：2020年11月21日、12月19日、
2021年1月16日、1月30日、2月13日、
3月13日 土曜日（全6回） 午後2時～4時

会 場：熊本市国際交流会館 2階 交流ラウンジ

参加費：無料

対 象：大学生 20名（11月1日から募集）

プログラム：「グローバル」という言葉をキーワードにしたトピックについて、ゲスト講師による基調講演と、ワークショップを通して意見交換を行い、グローバル社会についての理解を深めます。

申し込み：電話（096-359-2121）、またはメール

（koza@kumamoto-if.or.jp）に名前、電話番号、学校名、

学年を記入し、「グローバルワークショップ」と明記して送付して下さい。



グローバルワークショップ

私たちは、人や物、お金、情報など社会を構成するものが、日本の内外を問わず、密に行き交うグローバル化の時代に生きています。外国で起ったことが、直ちに日本にさまざまな影響を与える社会となり、また日本の国内外を問わず、日本人同士だけでなく外国人と協働する機会がますます増加していく社会となっています。つまり、多様性への対応が求められる社会でいかに能力を発揮できるかが重要となっています。

熊本市国際交流振興事業団では、グローバル社会に生きる現代社会の私たちが、学ぶべきもの何があるのか、どのようなことに注視すべきかについて、みなさんと一緒に考えていきます。そこで、6回にわたる「グローバル」という言葉をキーワードとしたトピックについてセミナーを開催いたします。

このセミナーでは、基調講演を聴講後に、大学生や専門学校生の同年代のみなさんと意見交換を行い、現在のグローバル社会について理解を深めます。

■開催日：

2020年 ①11月21日（土）②12月19日（土）
2021年 ③1月16日（土）④1月30日（土）
⑤2月13日（土）⑥3月13日（土）

■開催時間：各回とも 14時～16時

O14時～15時：基調講演
O15時～16時：意見交換ディスカッション

■会 場：熊本市国際交流会館 2F ラウンジ

■対 象：大学生・専門学校生

■定 員：20名

■参加費：無料

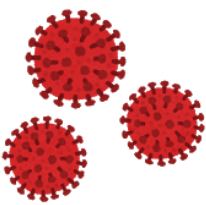
※本セミナーは全6回のセミナーとなります。



- 第1回：11月21日（土）「グローバル社会ってどんな社会：私たちに何と求められるのか？」
- 第2回：12月19日（土）「2030年、どんな社会をめざすの：SDGsってなに？」
- 第3回：1月16日（土）「貿易で国際協力＝倫理的な消費って何？」
- 第4回：1月30日（土）「くまもとにもあるSDGs：熊本市がめざす未来都市」
- 第5回：2月13日（土）「多様性を尊重するまちづくり：身近な外国人との共生」
- 第6回：3月13日（土）「これからの社会ってどうなっていく？：私たちにできること」

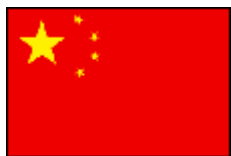
主催 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町 4-18 電話 096-359-2121 Fax 096 359 5783
<http://www.kumamoto-if.or.jp/default.html>



コロナ禍の中での世界の生活

今年に入り、世界各地に広がり大きな被害を出した「新型コロナウイルス感染症（COVID19）」ですが、日本だけでなく、世界でも様々な生活に関する影響を及ぼしました。そんな生活の様子を現地から報告してもらいました。



新型コロナの影響でアフターコロナでもマスク無しでは落ち着かなくなり、食生活も大きく変化しました。

- 取り箸が普及しました。
- 外食の機会が格段に減りました。
- 肉系の食べ物は必ず火をよく通すようになりました。

- 生ものや冷たい食べ物はあまり食べなくなりました。
 - 食事前は手を洗うようになりました。
 - 海産物を生で食べなくなりました。
 - 果物・野菜を塩水やアルカリ水に浸けるようになりました。
 - 生の食材と火の通った食材を扱う調理器具を分けるようになりました。
 - 水をたくさん飲み、新鮮な果物・野菜、高タンパクの食べ物をたくさん食べるようになりました。
- また、仕事ではテレワークが言うほど進んでいません。ただ、公共交通機関の利用が減り、以前より自家用車での通勤が増えました。

商談や打ち合わせは、オンラインの打ち合わせはそれほどやっておらず、今は普通に相手と会ってやっていて、出張もしています。

要は、仕事の面では、以前とあまり変わっていないということです。



私が現在住んでいるオーストラリアのメルボルンは最悪の「ステージ4」でロックダウン（都市封鎖）状態です。※8月末現在

- 午後8時～午前5時の夜間外出禁止令。不可欠な労働者以外の人は、家の外に出ることはできません。
- 市内のオフィスの人々は自宅で仕事をしなければなりません。

不可欠な労働者のみが職場に出勤して働くことができます（医師、看護師、トラックの運転手、スーパーマーケット、警察、軍隊など）

- 学校はすべてオンライン（ZOOM）での授業です。
- 運動のために、1日1回1時間だけ外に出ることができます。
- 制限なしで出かける理由は買い物か病院に行くことだけです。
- 自宅の訪問は禁止されており、親戚でさえもお互いの家を訪れることはできません。
- 職場を含め、運動以外のあらゆる場所でマスクを着用する必要があります。
- お店やどこにでも入る前にマスクを着ける必要があります。
- 入る前には、手や指を消毒または洗浄する必要があります。
- 体温をチェックする必要があります。

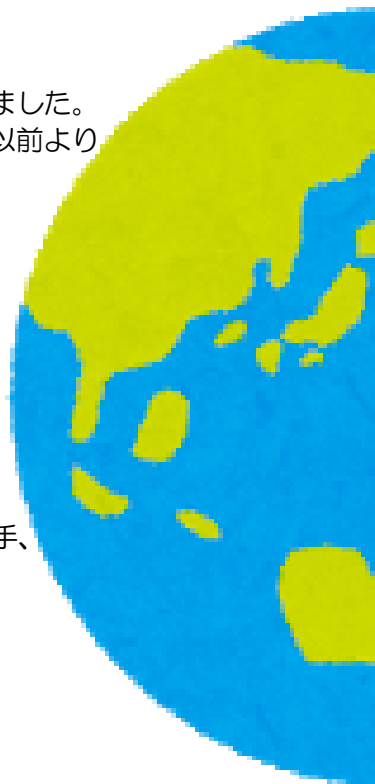
これらの決まりは私たちにとって刑務所のように感じられます。オーストラリア国民すべての人にとって困難であり、ストレスを感じます。

原文より

Melbourne is the worst in Australia with stage 4. Melbourne where I am currently living. We are in state of disaster - stage 4 lockdown.

- 8pm - 5am curfew can't not be out side unless you're are a essential worker.
- if office people from the city has to work at home.
- essential workers only can work. (Doctors, nurse, truck drivers, supermarket, police, army etc)
- school is all online with zoom.
- only can go outside once a day for exercising for one hour.
- only reason you go out without restriction would be shopping or doctor.
- no one can visit each other's homes not even your relatives.
- you have to wear mask at work and every where you go besides your exercising.
- must wear a musk before you can get in to shop or anywhere
- hand must be sanitize or washed before entering place.
- body temperature check

This for us feel like prison, it's hard and stressing for everyone here.





私は米国ペンシルバニア州チェスター郡に住んでいます。孫娘のお世話をしています。8月からオンラインで幼稚園のプログラムが始まりましたが子どもにとって幼稚園で友達と遊ぶことは重要です。行けなくて悲しい思いをしています。私にはボーイフレンドがいて、それぞれの家に住んでいます。初めは自粛中に会うかどうか迷いましたが、今まで通り会うようにしました。私たちはいつも素敵な場所に出かけて、食事をするを楽しんでいましたが、それはすべて3月に終わりました。3月以降にオープンしているレストランや屋外ダイニングは4分の1くらいしかありませんでした。これまで行っていたお店が再び開店するとすぐに、私たちはまた、それらのお店に出かけるようになりました。

家族にはハグやキスをしますが、知人とは握手さえしていません。私たちはお店に入る時や外を歩く時にもマスクを着けるよう求められています。正直なところ、私はこれらの行動が（新型コロナの感染防止に対して）そんなに有効だとは思っていません。人々はお互いに近づくことを恐れているようで、マスクをしているので表情が分かりません。私は毎日ほとんど自分のことだけに取り組んでいます。私は、高齢の両親の自宅を訪問し、そこで家族の集まりを行っています。

原文より I live in Chester County, PA, USA. (PA = Pennsylvania) I watch my Granddaughter full-time. She is starting kindergarten virtually at the end of the month. She has friends but I feel kindergarten is important for socialization and it's sad she can't go to school. My boyfriend lives in his own house. At first, I was confused as to whether or not to let him come over during the quarantine but decided that to continue on as we were before. We always enjoyed going out to a nice places for drinks and food but that all ended in March. Some restaurants have opened up to 25 percent and outdoor dining. As soon as they opened up we began to go out again. I still hug and kiss my family. Acquaintances are not shaking hands. We are required to mask up to shop and walk outside. To be honest, I'm not seeing too much positive about this whole thing. People seem to be afraid to go near each other, can't tell when you're smiling at them. Day to day though I'm pretty much going about my business. We do visit with my elderly parents and have family gatherings still.



私は、アメリカのカリフォルニア、ウッドエーカーに住んでいます。私自身のCovid19の経験はありがたいことにかなり最小限に抑えられています。私は感染すると合併症を起こす可能性が最も高い高齢者ですので、抵抗力を良好な状態に保つようにしました。私は定年退職し、農村地域にある一戸建ての家に住んでいます。市場に出かけるとき以外は、人との接触はあまりありません。出かけるときは、なるべく人と合わないように早い時間帯に出かけます。私の運動すると同じように、誰とも会わないようにしています。私は今回の新型コロナウイルスをインフルエンザと同じくらいの危険性だと考え、同じ予防策をとっています。今のところは私も周りの人にも感染者はいません。私にとってすべての最も厄介な問題は、ビジネスが止まっていることです。

原文より I live in Woodacre California USA. My Covid experience has been thankfully pretty minimal. I am of the age most likely to have complications if infected but I've kept my immune system in good shape. I'm retired and live in a single family home in a rural area. I don't have a lot of contact with folks unless I need to go to a market. When I go, I go early when not many are around. Same with my exercise routine I'm out there early with no one around. I think about the virus as much as I do the flu and take the same precautions. I don't know anyone who has it or who knows anyone who has had it. Maybe the most annoying part about the whole thing for me is the businesses that are closed.

2020年度「世界をよく知るセミナー」開催のお知らせ

～新型コロナと国際協調・連帯、多文化共生～

世界各地で様々な対応がとられ、その後の人々の生活様式にも変化を与えた今回の「新型コロナウイルス感染症（COVID19）」ですが、未だ、有効的な治療薬の見つかっていないこの病気に対しては三密の回避、マスクの着用、手指の消毒など様々な予防対策で対抗するしかありません。

一方で、医療従事者や感染者に対する謂われない差別や、「自粛警察」と呼ばれる人権の侵害といった問題も世界各地で見られました。

そこで、国際交流会館では、今回の新型コロナウイルス感染症をテーマに「世界をよく知るセミナー」を下記の日程で開催します。国際医療福祉大学の水巻中正教授を講師に迎え「新型コロナと国際協調・連帯、多文化共生」という演題で今回の新型コロナウイルス感染症に対して、世界各国では、どのような取り組みがおこなわれてきたかを学び、世界規模で拡大する問題に対して、私たちはどう対処すべきか、そして多文化共生のまちづくりについて講演をいただきます。

日 時：令和2年（2020年）12月6日（日）
午後2時～4時（1時半受付）

場 所：熊本市国際交流会館 7階 ホール

定 員：100人

参加費：無料

申 込：11月5日（木）午前9時から受付
電話、メール、窓口（先着順）

水巻中正氏 国際医療福祉大学、医療福祉経営専攻 医療福祉ジャーナリズム、医療福祉経営学、医療福祉国際協力学

略歴：同志社大学経済学部卒。読売新聞東京本社社会保障部長を経て、2001年10月から国際医療福祉大学教授。同大学医療経営管理学科長、同大学院医療福祉経営専攻主任等を歴任。現在同大学院教授。

専門分野：ジャーナリズム論、医療福祉経営・政策論。国際医療福祉比較論。



国際交流会館では、高校生・大学生によるインターン活動を受け入れていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、その活動もほとんどが中止となってしまいました。そんな中、9月に熊本県立大学と尚絅大学の3人の学生さんがインターン活動を行いました。

前半に「フェアトレード」や「SDGs」、「多文化共生」についてのレクチャーを行い、活動の後半は国際交流会館での事業実施のお手伝いをしていただき、その様子や感想を「きふプロ（ブログ）」にて報告してもらいました。



国際交流会館のlinkcafeで販売しているデバインのチョコレート

こんにちは！尚絅大学現代文化学部文化コミュニケーション学科3年の山下です。
3日間、インターンシップでお世話になります。
インターンでは国際交流の意義や社会人としての姿勢など学びたいと思っています！
インターン初日！

館内の案内から始まり、事業について色々なお話を伺いました。

その中で、特に印象に残ったのは、フェアトレードについて！！

皆さんフェアトレードはご存知ですか？名前を聞いたり、商品をお店で見かけたことなどあるかもしれませんね。

フェアトレード商品は少しお高いイメージもありますが、それは生産者や労働者に対して正当な対価や技術支援を行うためだそうです。

買い物をするときに、値段を見て決めることもよくあると思いますが、その商品がなぜ安いのか、または高いのか、どのような理由があるのか少し考えてみるのも面白いかもしれませんね♪

国際交流会館の中でもフェアトレード商品を取り扱っているのでぜひチェックしてみてください！

お話の最後に、フェアトレードのコーヒーとチョコレートを頂きましたが、とても美味しくて、今度また買ってみようと思います♪。

こんにちは。熊本県立大学総合管理学部総合管理学科3年の橋本です。

インターン2日目は、「グローバル人材に必要とされる資質は？」のワークショップを行った後に、SDGsと多文化共生についてのお話を聞き勉強させて頂きました。

SDGsには17の目標と169のターゲットがあります。どの目標も大きな目標に見えますが、私達も身近なところでも取り組めるものです。そして何と言ってもSDGsのデザインがオシャレだと思います。取り組む内容もデザインも素敵ですね。

多文化共生を行うためには、対等な関係を築こうとする努力が必要だということを学びました。そのためにまずは熊本にいらっしゃる外国の方との交流やコミュニケーションをとる機会に積極的に参加しようと思います！！

たくさんの知識を教えていただき、たくさん頭を使って考えたので、新たな視点を獲得することができました！一日一日がとても貴重な時間になっています。

一緒にインターンに参加しているほかの二人とも仲良くなれました！お昼の時間におしゃべりするのが毎日の楽しみの一つです。

こんにちは！インターンに参加させていただいている熊本県立大学文学部英語英米文学科3年の米井です。

今日は風戸南陽子さんの美しい日本語講座に参加させていただきました！

風戸さんは熊本のフリーアナウンサーでラジオ番組のパーソナリティとして活動されている方です。発音がとても綺麗で笑顔も素敵な方でした。

風戸さんは講座の中で相手の話を本気で聞くことが大切と言うことをおっしゃっていました。

人が話したことによって自分では思い出すとは思っていなかったことについて思い出すきっかけにもなりますし、相手とのやりとりによって学べることもたくさんあります。

相手とのやりとりでこれをやってみようという刺激を受けたり、人それぞれの日本語の表現の豊かさも学ぶことができ視野を広げることもできると思います。

相手との言葉のキャッチボールによって自分自身の言葉や人生は作られていくものであり、積極的に会話することの大切さを実感しました。

日本語はとても奥が深く、日本人でも日本語について知らないことはたくさんあり日本語を学ぶことはとても面白いと感じました。





世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介しします。

「グアテマラにて」

青年海外協力隊 2019年度1次隊 濱田 真梨子 (はまだ まりこ) さん

(2019年7月～2020年3月 グアテマラ派遣 職種：小学校教育)



かつてマヤ文明の中心都市として繁栄した中米グアテマラ。世界遺産のティカル遺跡や世界一美しいといわれるアティトラン湖が人気を集め、コーヒーも有名です。国民のおよそ半分はマヤ系先住民

で、公用語のスペイン語のほかに約20のマヤ系言語も使用され、女性は色鮮やかな伝統衣装ウィピルに身をつつんで暮らしています。

個人的に心惹かれたのは、植物の葉っぱを使うグアテマラの料理法。お祝い事で必ず食べる「タマーレス」は、つぶしたトウモロコシやジャガイモに干しブドウなどを加えたものを、大きなバナナの葉にくるんで蒸した料理です。その他にも、トウモロコシの葉を使う料理もあって種類は豊富です。自然からいただく命を最大限生かしながら、美味しい食事を家族みんなで囲む、そんなグアテマラの食文化が素敵だなと思います。



同僚家族と撮影
グアテマラ伝統衣装のウィピル着用



小学校の先生宅にて
昼ごはんを料理中

の娘、息子よ)」と、呼び方にも親しみが込めら

れていたのが印象的でした。

一方で主な課題は先生たちの学力、知識不足でした。掛け算の九九を先生自身が言えなかったり、立方体の体積を求める公式を誤って教えていたりする実態もありました。国の指導カリキュラムはあるものの、不得意な単元を飛ばして、自信をもって教えられる内容のみ教えるというのが常態化していました。

そこで私の活動では、先生たちに算数をもう一度学びなおしてもらおう研修会を開いたり、卵パックやペットボトルの蓋など身の回りのもので簡単にできる教材



任地で開いた研修会の様子

づくりなどを紹介したりしました。「日本の教育について知りたい！」と前のめりになる先生が多く、とても楽しく活動させてもらいました。

しかし、そんな中、新型コロナウイルスの影響で、本来は2年の任期だったところを8か月で帰国することになりました。やりたかったことはまだあり、現在は日本から映像授業で算数を教えるプロジェクトをJICAボランティアの友人たちと行っています。直接行くことが難しい今ですが、オンラインで楽しい学びを提供出来る可能性を探っていけたらと考えています。

※濱田さんは今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け一時帰国されました。

JICAデスク熊本について

JICA海外協力隊(青年海外協力隊、シニア海外協力隊)や国際協力に興味がある方はJICAデスク熊本までお問い合わせ下さい
熊本市国際交流会館2階
午前9時～午後6時(日曜、月曜休み)
TEL: 096-359-2130
E-mail: jica-desk.kumamotoshi@jica.go.jp

わよつく Japanese Tip 日本語

NPO法人日本語サポートあさ

代表 小川 ひろみ さん

世界につながる日本語の歌

コロナ禍でステイホームが続いています。そんな中で日本語教育もオンラインで教師の勉強会や日本語授業があつという間に広がりました。先日のオンライン教師会でフランスの日本語教師から安倍首相のインスタ投稿「うちで踊ろう（星野源）」が、フランスで流行していること、授業でこの歌を使っていることを聞きました。「うちで踊ろう→うちで話そう/ 見よう/ 書こう」動詞を変えて日本語の意向形（～う）を歌いながら練習して楽しんだということです。授業で使う定番の歌には「10人のインディアン・Ten Little Indians」で「ひとり ふたり～」を覚えることもあります。また「ドラえもん」は世界中の学習者に知られていて、日本語がまだおぼつかなくても、ひらがな表記の歌詞をみながら歌えば楽しくひらがなが覚えられます。

日本語学習者はインターネットで日本語を勉強していますから、日本語の歌が大好きです。世界の日本語学習者と歌でつながってみませんか。

ホームページをリニューアルしました！

<http://www.kumamoto-if.or.jp>

熊本市国際交流振興事業団では、様々な情報を発信していますが、この度、ホームページを刷新しました。国際交流会館、事業団、そして熊本市外国人総合相談プラザの3つに分かれており、それぞれに必要な情報の入手が可能となりました。

熊本市国際交流会館のページからは各会議室や研修室に関する詳細が分かるだけでなく、使用の際に必要なとされる各種の申請書もダウンロードすることができます。

熊本市国際交流振興事業団のページからは様々な事業やボランティアの活動が紹介されており、WEB上でボランティアの申し込みが可能です。

熊本市外国人総合相談プラザのページでは生活に必要な情報を多言語で提供しています。スマートフォンでの表示にも対応して、さらに見やすくなった新しいホームページをぜひ、ご活用下さい。

☆2020（令和2）年度賛助会員募集中！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

①個人会員 一口 2,000円/年（一口以上） ②団体会員 一口 10,000円/年（一口以上）

継続・新規加入ありがとうございました。（2020年9月30日までにご加入いただいた皆様）【団体】50音順（継承略）

阿蘇医療センター、医療法人寿量会、株式会社セイラグロース、熊本県行政書士会、熊本赤十字病院、熊本日独協会、熊本日米協会、熊本労災病院、国保水俣市立総合医療センター、国立病院機構熊本医療センター、社会福祉法人済生会熊本病院、崇城大学



一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住 所：熊本市中央区花畑町4番18号

熊本市国際交流会館

休館日：第2・第4月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

T E L : 096-359-2121

F A X : 096-359-5783

E-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp

U R L : <http://www.kumamoto-if.or.jp>

